

留学生の声

塾内在籍高校・学年(派遣時)	慶應義塾女子高校 3年
留学先高校名	Phillips Academy Andover
留学期間	2017年9月から2018年6月まで

どのようなことを期待して渡航しましたか？

アンドーバーは、過去に大統領も輩出した米国屈指の名門で、世界中から志の高い、優秀な生徒が集まっている学校だと聞いていましたので、自分がその様な環境で学び、また寮生活を送れるということが夢のように思えてなりません。特に、ディスカッション形式の授業や新しい友達との出会いがとても楽しみで、授業での意見交換や日々の生活を通じて、様々な文化・意見に触れて、自分の視野を広げたいと思っていました。

留学を振り返って

10ヶ月の留学生活は、あらゆる面で自分の期待を大きく上回っていました。まず、アンドーバーには、1人1人の生徒が満足できる学校生活を送ることができる環境が整っていました。生徒には300を超える選択科目数や、100以上の部活やボランティア活動を含めた課外活動をはじめ、本当に多くの選択肢が与えられています。私は、伸ばしたい教科だけでなく勉強したことのない教科を選択したり、あらゆる課外活動に参加したりしていく中で、自分には何が適しているのか、何が適していないのかを考えることができました。また、私が毎週とても楽しみにしていたのは、ゲストスピーカーによる講義でした。ミシェル・オバマのスピーチライター、最先端のロボットの開発者、発展途上国支援活動を行うNPOの創始者、世界で活躍するシェフなど、様々な分野の方のお話を聞くことができました。学校があらゆる分野のスピーカーを招待するのは、生徒に無限の可能性を知ってもらうためなのだ、と校長先生がおっしゃっていたことに感銘を受けて、私はアンドーバーだからこそのこの得難い経験からできる限りを学ぶために、行ける講義には全部参加することを心がけていました。さらに、アンドーバーの友達からも多くを学ぶことが出来ました。皆が自分の意見をしっかりと持ち、自信を持ってそれを発表している様子は想像以上に刺激的で、毎日のように新しい意見や考えに出会いました。これは授業中のみに限らず、生徒主体で行われる政府への抗議運動や、校則が変わることに対する反対運動では、高校生でありながらも自分たちの意見を周りの社会に反映させたいというみんなの強い思いが感じられました。生徒同士がお互いに刺激し、高め合うことができるアンドーバーでの日々には常に学びがありました。

課外活動について

-Andover Lawrence Strings

アンドーバーには Community Engagement という学校外のコミュニティでのボランティア活動があり、Andover Lawrence Strings はその中の1つです。Lawrence という近くの町の子供たちに音楽を教える活動で、ピアノ・バイオリン・チェロを演奏できる生徒20人が学校の敷地内にあるチャペルで週1回1時間ほど行っていました。私は小学3年生の男の子にピアノを教えました。その子は、ピアノの弾き方や楽譜の読み方を知らない状態からのスタートでしたが、秋学期から春学期まで教え、最終的には楽譜は自力で読めるようになり、ゆっくりですが右手と左手を合わせて弾けるようになりました。

Community Engagement はもちろん全て無償で、活動はかなりの時間を要しますが、大学進学へのプレッシャーもある中、多くの生徒が Community Engagement に参加していることから、アンドーバーのモットーである Non-sibi の精神が根付いていることが感じられます。

-Blue Frontier

アンドーバーでは、生徒が自由に部活動を作ることができます。Blue Frontier は、1つ学年が下の友達3人と一緒に作った歴史・ニュース新聞です。

キャンパス内では生徒が頻繁に社会問題や政治について語り合っている様子を目にします。しかし、意見交換をしているのは多数派の意見を持つ生徒で、少数派の意見を持つ生徒は発言しにくく感じるというのが現在のアンドーバーの状況のようです。この活動はどんな意見を持った人でも発言できるような場をオ

慶應義塾一貫教育校派遣留学制度

オンライン・月刊雑誌を通じて作ることを目標にして作ったクラブです。これは少数派の生徒の意見を全面に出すということではなく、多数派、少数派、また世界中から生徒が集まるアンドーバーだからこそ得られる国際的な意見、たった1つの事柄でも見方は人それぞれ異なるということを知ってもらうということです。私はこの活動の幹部の一員として、活動申請、広告、予算などの企画に携わっていました。活動への資金援助を学校に要請したところ、学校から6200ドルを受け取ることができ、春学期に正式なクラブとして認められました。

授業について

文系科目の授業は大抵宿題で読んだ文章に関するディスカッションです。文章中で自分が興味を持った点、疑問に思った点をクラスで発表し、内容への理解をより深めることが出来ます。授業内容は、例えば“世界史”の中でも Asian History/History of Middle-East/Revolution in Europe/Tudor England などと細かく分かれているため、狭く深い知識を得ることが出来ます。宿題には2通りありました。1つは本・冊子を読む宿題です。授業は宿題で読んだ文章の内容に関するディスカッションが主なので、宿題をこなさなければ授業についていくことができません。私が選択した教科の宿題では、1日平均30ページの文章を読みました。2つ目は、エッセイです。授業によりますが、大抵各学期に3、4つエッセイを書きます。それまで読んだ文章のアイデアを利用して、1週間ほどで書き上げます。日本の高校では文章を書く経験をあまりしてこなかったため、最初はエッセイ1つ書くために多くの時間を要していました。3学期かけてかなりの個数のエッセイを書くため、春学期には比較的短時間で書けるようになりました。経済学（ミクロ経済）は、大学で経済学部進学を志望していたため、選択しましたが、初めて学んだためかなり難しいと感じました。授業は基本的にテキストを1章読み、その内容をクラス全員で確認するというものでした。また、「発展途上国を1カ国選び、その国の経済発展を促す計画を立てる」という内容のプレゼンテーションをグループで作るというアクティビティもありました。

Public Speaking は人前でスピーチやプレゼンテーションを行う練習をする授業です。授業中・放課後を使ってテーマに沿った内容の原稿を書き、暗記をして、クラスの前で発表をしました。人前での発表は今後確実に経験すると思うので、日本の高校にはないこの授業を受けることができよかったですと思います。

今後の派遣留学生へのアドバイス

勉強面と生活面、共に日本の高校とは大きく異なるため、心配なことも多いと思います。私も入学前は学校になじめるのだろうか、授業についていけるのだろうか、などと不安でいっぱいでした。しかし、アンドーバーの先生方・生徒は本当に全員が親切で、「こんなにさせていただいてしまって良いのか」と思ってしまう程、温かく勉強面・生活面のサポートをしてくださるため、私の場合入学から2週間経った頃には不安を忘れ、ただひたすらに学校生活を楽しんでいました。

留学に向けて、日本にいる間になにか準備をなさるのであれば、英語の文章を速読する練習をすることをお勧めします。アンドーバーでは文章を読む宿題が本当に多く、先ほども書いた通り私の選択していた教科では1教科につき30ページほど読んでいました。1語1語丁寧に読むのには長時間を要してしまうので、細かく読む箇所・読み流しても良い箇所を判断して、速く読めるようになれば宿題はとても楽になると思います。

以上

